

目 次

I 中世資料

一 猪苗代兼載筆『源氏一部抜書』……………5

二 細川幽斎筆『一葉抄』『楨柱』の卷……………41

三 中院通勝筆『源氏物語絵詞』……………57

四 伝高倉範音筆『源氏抜書并歌口傳』……………71

五 異本『雲がくれ』……………91

六 白描『源氏物語絵巻』……………115

II 近世資料

一 橘守部筆稿本『源語類聚鈔』……………157

二 福田美楯筆『玉廼小櫛』……………179

三 藤原明恒著『源氏薰香考』……………207

四	井上好春著『源氏雨夜立聞』……………	225
五	近世初期写『源氏物語抄』……………	233
六	成島筑山自筆稿本『紫史吟評』……………	257
七	『源語畧説』……………	291
八	「源氏十二月詞」「源氏長歌」その他……………	305
九	源氏物語の袖珍本……………	331
十	住吉如慶画『源氏物語扇面画帖』……………	341
十一	土佐光成画『源氏物語若菜卷絵巻』……………	353
III 享受資料解題と目録		
一	近世出版の『源氏物語』の享受資料……………	365
二	源氏流生花書解題……………	415
三	錦絵「源氏絵」総目録……………	423
四	「源氏双六」「源氏絵合」「源氏かるた」解題……………	487
	あとがき……………	501

I 中世資料

二字下げ、下句は三字下げに、また第三・四・五冊は、上句はほぼ三字下げ、下句は四字下げに書く。本文より各冊の収載範囲は、

- 第一冊 桐壺〜葵
- 第二冊 賢木〜絵合
- 第三冊 松風〜真木柱
- 第四冊 梅枝〜竹河
- 第五冊 橋姫〜夢浮橋

となっているが、第四冊の末尾に「源氏のふみのしなく」とした二丁半ほどの文章があり、第五冊の末にも「夢のうきはしと申は……」以下四丁ほどの文章がある。

本書の筆者については、第一冊の見返しに、

「猪苗代法橋兼載 源氏拔書全部 五冊 山琴」

と記した極札が貼付されており（写真参照）、本書を納めた古い桐箱の蓋上右寄りにも、

「源氏拔書 五冊 猪苗代法橋兼載筆」

とある。また、本書と共に伝わる「極札 了音/代付 了仲」と二行に上書きした奉書紙の中には、

「源氏拔書 五冊/一兼載法師/金子五枚」と記された紙片が入っている。これらことから本書は、猪苗代兼載筆の「源氏拔書」とされているものであることが知られる。本書を兼載筆とすることについては、時代・書風共に十分首肯しうるもので、他の兼載筆の諸資料と比較しても、信じてよいと思われる。なお、箱の蓋上や極札に「源氏拔書」とあるのは、おそらく正式な書名ではないであろう。本稿では、本書の書名を便宜上第五冊末の尾題によって、「源氏一部拔書」と称しておく。

